患者さんと中央市民病院をつなぐ情報誌

SHIOKAZE Magazine

し／お／か／ぜ／通／信

Vol. 63
2026 SUMMER



断らない救急と
質の高い医療を
市民のために

Satoshi Kaihara
病院長　貝原 聡

Contents

P1-2　病院長就任のごあいさつ
P3-8　副院長・各外科部長 ・部長代理 就任のごあいさつ
P9　「だるさ・疲労・総合」外来のご紹介
P10　2026年度「患者教室」のご案内
P11　ご寄付のお願い



このたび、神戸市立医療センター中央市民病院の院長に就任いたしました貝原聡です。長く当院の発展につくされ、地域医療を支えてこられた木原前院長の後を引き継ぐこととなり、その責任の重さに身の引き締まる思いと同時に、神戸の皆さまの健康と命を守る組織のリーダーとして、あらためて覚悟を新たにしています。

私はここ神戸の街で育ちました。大学進学を機に一度は故郷を離れたものの、2007年に外科医として当院に赴任して以来、およそ20年近くにわたり、一人の医師として地域の皆さまと苦楽を共にしながら医療の現場に立ってまいりました。診察室や病室で交わしてきた患者さんやご家族との対話、そして地域の方々から寄せられる期待の声こそが、私の医師としての原動力であり、市民病院が果たすべき役割の大きさを教えてくれた原点でもあります。

これまで当院は、未曾有の危機であった新型コロナウイルス感染症への対応をはじめ、激変する社会情勢や医療現場の働き方改革など、数多くの困難な課題に直面してきました。しかし、どのような逆境のなかにあっても、当院の職員たちは常にプロフェッショナルとしての誇りを持ち、互いに手を携え、地域の医療の灯を絶やさぬよう全力で乗り越えて来ました。とは



病院長
就任のごあいさつ

貝原 聡（かいはら さとし）

1987年京都大学医学部卒業、1988年赤穂市民病院、1994-1999年京都大学大学院、ボストン小児病院、マサチューセッツ州総合病院（MGH）にて臓器移植・再生に関する研究にて医学博士取得、2000ー2003年京都大学病院にて肝臓移植の臨床に従事、2003ー2007年京都府立医科大学にて准教授、生体肝移植立ち上げ、2007年より神戸中央市民病院外科所属、2011年外科部長、2022年より副院長を務める

いえ今もなお、少子高齢化の加速や医療体制の確保など、私たちを取り巻く環境は決して平坦ではありません。だからこそ私たちは、

『信頼の医療技術と寄り添う心で、地域に安心を届ける医療へ』

という思いをあらたに、これからの時代にふさわしい医療に向き合ってまいります。

当院は、救急医療やがん医療、周産期医療など、高度で専門的な「命を守る医療」を確実に提供し続ける「神戸市民の最後の砦」です。この使命を果たすため、私たちは日々の診療だけでなく、より安全で質の高い革新的な医療技術の導入にも積極的に挑戦し、進化を続けてまいります。

私たちが目指すのは、患者さんやご家族の不安を受け止め、誰もが「ここなら安心して任せられる」と心から感じていただける病院です。神戸で暮らす皆さまが、生まれ育ったこの街で、これからも健康で安心して毎日を過ごせるよう、病院スタッフ一丸となって全力を尽くしてまいります。新体制となった中央市民病院を、どうぞよろしくお願いいたします。

病院長　貝原　聡

副院長就任のごあいさつ



副院長 美馬（みま） 裕之（ひろゆき）

このたび、2026年4月1日付で副院長を拝命いたしました、美馬裕之と申します。2017年からは麻酔科・集中治療部長として主に手術室、ICUの管理と臨床倫理相談を担当しております。病院には2006年からお世話になっていますからもう20年くらいになりました。

当院は断らない救急を標榜し、日夜救急車を受け入れてきました。おかげさまで救急救命センターは12年連続1位というご評価をいただきました。思い返しますと阪神淡路大震災、新型インフルエンザ、そしてコロナ禍と、災害と呼べるものは意外にしょっちゅうあるものです（実は1995年の大震災時も、駆け出しのころですが有吉救急部長とともにこちらにお世話になっていました）。病院は生き物です。時代の変化への対応と、これまで培ってきた中央市民のスピリッツの継承を胸に、ひきつづき急性期医療の充実を図ってまいります。

同窓会などでは健康の話題が中心になったりする年になりました。街を散策しておりますと、今日は〇〇病院に行ってきた、△△病院のあの先生は優しいといった病院話があちこちで聞こえてきます。中央市民病院のファンだという方もおられ、大変うれしい気持ちになりますが、一方では手厳しいご意見が聞こえてくることもあります。心の中で謝りながら、皆様からの声に耳を傾け、よりよい病院に進化していけるよう、努力していく所存です。どうぞこれからも宜しくお願い申し上げます。

外科・移植外科部長 就任のごあいさつ



私は神戸で生まれ育ち、兵庫県立御影高等学校を卒業いたしました。2023年10月に当院へ着任し、この度、愛する故郷・神戸の基幹病院で舵取りを任されることとなり、強い使命感を感じております。当院外科は、以下の3つの大きな柱を軸に、常に進化を続けています。

1.高難度低侵襲治療

食道、胃、肝胆膵、大腸、直腸と、すべての領域に熟練したスペシャリストが在籍しており、外科手術のほとんどをロボットもしくは腹腔鏡下で行うことで、患者さんの早期社会復帰を強力にサポートします。

2.救急外科

神戸市の「最後の砦」として、救急科と密接に連携し、いかなる緊急手術も24時間体制で受け入れています。重症度に関わらず、迅速に最適な手術を提供できる体制を整えています。

3.専門性を極めた「ヘルニアセンター」

当センターでは、一般的なメッシュを用いた手術だけでなく、日本で当院のみが実施可能な「メッシュを使わない組織修復術」や、治療が難しいとされる「鼠径ヘルニア術後慢性疼痛」への専門外来も開設しております。他院で解決しなかったお悩みにも真摯に向き合います。

すべての患者さんに「ここで手術を受けて良かった」と言っていただけるような医療を実現すべく、高い技術を提供し、患者さんの声に耳を傾け、地域の先生方とも緊密な連携を保ちながら、神戸の基幹病院としての役割を遂行していく所存です。

外科・移植外科 ヘルニアセンター長
部長 成田（なりた） 匡大（まさとお）

放射線治療科部長 就任のごあいさつ

2026年4月1日付で放射線治療科部長を拝命いたしました池田格と申します。これまで京都大学病院や倉敷、静岡、滋賀の地域中核病院において、放射線治療を中心に診療・研究に携わってまいりました。2025年4月より当院に勤務し、多くの患者さんの治療に関わらせていただいております。

近年、放射線治療は大きく進歩し、がんに対してより精密で身体への負担の少ない治療が可能となっています。高精度な技術により、病変に集中的に放射線を照射しながら、周囲の正常組織への影響をできる限り抑えることができるため、「切らずに治す治療」として重要な役割を担っています。根治を目指す治療から、痛みなどの症状を和らげ生活の質を保つ治療まで、幅広い場面で患者さんを支える医療です。

当院では、リニアックや小線源治療装置、治療計画用CTなどの更新が進められており、本年7月には最新の放射線治療設備が整います。これにより、より安全で精度の高い治療を、迅速かつ安心して受けていただける体制がさらに充実します。

放射線治療は、医師だけでなく、放射線技師、医学物理士、看護師、事務スタッフなど、多くの専門職が連携して支える医療です。当科では、患者さん一人ひとりに適した治療を丁寧に考え、安心して治療に臨んでいただけるよう、チーム一丸となって取り組んでまいります。



放射線治療科
部長 池田（いけだ） 格（いたる）

脳神経外科部長 就任のごあいさつ



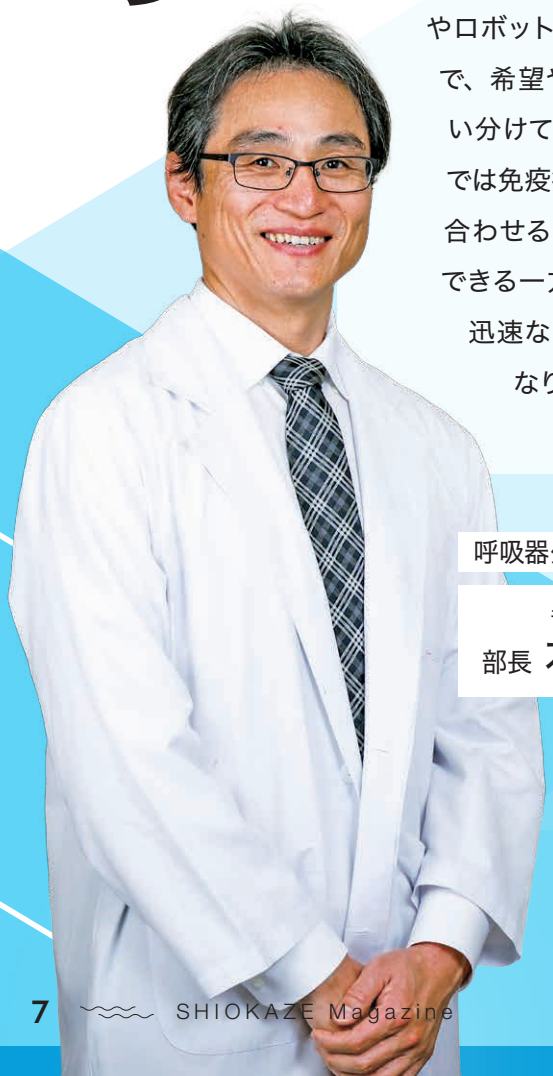
脳神経外科

部長 今村（いまむら） 博敏（ひろとし）

脳神経外科部長を拝命いたしました今村博敏と申します。私は1998年に京都大学医学部を卒業後、当院の前身である神戸市立中央市民病院で医師人生をスタートし、1998年から2004年までの6年間と2007年から2022年までの15年間、当院脳神経外科で勤務してまいりました。そして国立循環器病研究センターで4年間研鑽を積み、このたび脳神経外科部長として戻ってくる機会をいただきました。脳卒中診療においては、「Time is Brain」という言葉に象徴されるように、1分でも早い搬送と治療が重要です。当院の理念である「1年365日、24時間、断らない救急医療」を体現し、「脳卒中になっても困らない街 神戸」の実現を目指してまいります。

また当院では、脳血管疾患に対する予防的外科治療や血管内治療、良性・悪性を含めた脳腫瘍の外科的治療・放射線療法・化学療法、さらに内分泌内科と連携した下垂体腫瘍の外科治療、脊髄・脊椎疾患に対する手術など、幅広い脳神経外科診療を行なっております。そして、それぞれの分野において専門医を中心とした体制を整え、高度で専門性の高い医療を提供していきたいと考えています。私はこれまで脳神経外科救急を志し、当院で医師としての大半のキャリアを歩んでまいりました。伝統ある神戸市立医療センター中央市民病院脳神経外科をさらに発展させ、最新かつ最善の脳神経外科医療を提供できるよう尽力してまいります。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

呼吸器外科部長 就任のごあいさつ



呼吸器外科
部長 本山（もとやま） 秀樹（ひでき）

2026年3月1日付で呼吸器外科部長を拝命いたしました本山秀樹と申します。神戸で生まれ育ち、何かあると当院を受診していた思い出があります。神戸高校ラグビー部に所属し試合で負傷した際に治療を受けたのも当院でした。産業医科大学に進学し、研修後に京都大学呼吸器外科に入局しました。大学院卒業後は助教として胸腔鏡手術、肺移植、血管・気管支形成など、多くの経験を積ませていただきました。この経験は近年目覚ましい進歩を遂げている胸部腫瘍治療に大きく貢献できるものと考えています。肺および縦隔腫瘍の手術は従来の胸腔鏡手術に加え、単孔式胸腔鏡手術やロボット支援下手術が選択可能で、希望や腫瘍の状況に応じて使い分けています。また、進行肺癌では免疫療法や分子標的薬を組み合わせることで大きく予後を改善できる一方で、有害事象に対する迅速な対応が求められるようになりました。

当院は救急をはじめ専門分野が高度に整備され、多職種連携による最適な治療提供が可能です。

様々な治療が可能となりましたが、最も大切なのは患者さんの人生観・価値観を大切にして最適な医療を届けることと考えております。肺癌などの腫瘍の可能性を指摘されれば誰しも強い不安に襲われると思います。その不安を手術によってすこしでも和らげ、笑顔を届けられるようなチームを目指しています。

高校3年生の時に震災を経験し「もう戻れないかもしれない」と思いながら神戸を出て、8年前に西神戸医療センターに戻ってくることができました。そして2026年3月から引き続き神戸のために働く機会をいただけたことを感謝しております。当院に赴任して感じたのは、高度な医療レベルを有するスタッフ医師だけでなく、やる気に満ちた若い医師、コメディカル、事務職員が多く在籍しているということです。今後の医療を担う人材が存分に力を発揮できる環境を整え，「家族、友人に受けてもらいたい医療」を継続的に提供することが、神戸からいただいた恩に報いる道だと考えております。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

小児科部長代理 就任のごあいさつ



小児科・新生児科

部長代理 岡藤（おかふじ） 郁夫（いくお）

2026年4月より、小児科部長代行を務めております岡藤郁夫です。

私は但馬にゆかりがあり、姫路で生まれ育ちました。愛媛大学医学部を卒業後、京都大学小児科を中心に、大学病院やこども病院で感染症、免疫、アレルギー診療を学び、2007年から当院で診療を行っています。

この20年で小児医療は大きく変わりました。ワクチンの普及によって重い感染症は減少し、小児科医の役割も「病気を治すこと」だけでなく、「子どもたちが健やかに成長し、その子らしい未来を歩んでいけるよう支えること」へと広がっています。

当院小児科では、新生児医療や急な病気への対応はもちろん、食物アレルギーに対する食物経口負荷試験、アトピー性皮膚炎のスキンケア指導、アレルゲン免疫療法など、専門的な診療にも力を入れています。また、起立性調節障害、睡眠、肥満の問題など、学校生活や日常生活に関わるお悩みにも寄り添い、お子さんとご家族の生活全体を支える医療を心がけています。

私たち小児科の理念は、

「仲間を大切にし　子どもと家族の未来を支え　安心して子育ち・子育てができる地域社会づくりに貢献します」

です。

ここでいう「仲間」とは、子どもたちやご家族、保育園・幼稚園や学校の先生方、地域のクリニックの先生方、そして病院で働くスタッフ一人ひとりを含みます。お互いを尊重し支え合いながら、子どもたちの成長を見守り、家族の皆さまが安心して子育てを続けられるよう力を尽くしてまいります。

当院小児科は、地域の子どもたちとご家族を支える拠点でありたいと考えています。地域のクリニックや診療所の先生方と連携しながら、必要なときには専門的な検査や治療、入院医療を安心して受けていただける体制づくりを進めています。

少子化が進む時代だからこそ、一人ひとりの子どもたちを大切に育み、ご家族を支える医療の価値はますます高まっています。私たちは地域の皆さまとともに、子どもたちが笑顔で成長できる環境づくりに貢献し、「この地域で子どもを育てたい」と思える社会を目指してまいります。

お子さんのことで気になることや心配なことがありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。これからも地域の皆さまとともに、子どもたちの健やかな未来を支えていければ幸いです。

「だるさ・疲労・総合」外来のご紹介

総合内科では、毎週火曜日午後に「だるさ・疲労・総合」外来を開設しています。

担当医として、神戸大学医学部附属病院 総合内科の官澤洋平先生をお迎えし、診療を行っています。


官澤洋平先生

官澤先生からのメッセージをご紹介します。

「なんとなくだるい」「疲れが続く」「検査では異常がないと言われたけれど、しんどい」――そんな症状でお困りではありませんか。
「だるさ・疲労・総合」外来では、慢性的な疲労感や倦怠感、COVID-19後に続く体調不良（いわゆる後遺症）など、原因がはっきりしないさまざまな不調に幅広く対応しています。
総合内科・総合診療で培った、多角的に患者さんを診る視点を活かし、身体の病気だけでなく、生活背景やこころの負担にも目を向けながら、丁寧な診療を心がけています。
「どこに相談したらよいかわからない」
「いろいろな医療機関を受診したけれど改善しない」
そんな時こそ、ぜひご相談ください。
症状の背景を一緒に整理し、必要に応じて専門診療科とも連携しながら診療を進めていきます。
患者さんに「受診してよかった」と感じていただけるよう、一人ひとりに寄り添った診療を大切にしています。
お困りの症状がありましたら、お気軽にご相談ください。



2026年度「患者教室」のご案内

当院では、患者さんやご家族が病気について正しく学び、安心して療養生活を送れるよう、様々な「患者教室」を定期開催しています。
参加費無料・原則予約不要ですので、どうぞお気軽にご参加ください。

心臓病教室

弁膜症、心筋梗塞・狭心症、心不全、高血圧、不整脈などを多職種が分かりやすく解説。

2026年 7/10(金)、8/14(金)、9/14(月)、10/9(金)、11/13(金)、12/11(金)
2027年 2/12(金)、3/8(月)

13:30〜15:30
(13:15受付)

糖尿病教室

合併症、お薬、食事療法、運動、日常生活の注意点を多職種チームと学びます。

2026年 7/1(水)、8/5(水)、9/2(水)、10/7(水)、11/4(水)、12/2(水)
2027年 2/3(水)、3/3(水)

13:30〜14:30
(13:15受付)

消化器病教室

消化器全般の正しい知識を医師・薬剤師・栄養士が講義。

2026年 7/9(木)、9/10(木)、11/12(木)
2027年 1/14(木)、3/11(木)

14:00〜16:00
(13:45受付)

腎臓病教室

「初期」「保存期」「末期」のステージに応じた適切なケアや生活の工夫を説明。

2026年 7/3(金)、9/4(金)、10/2(金)、11/6(金)
2027年 2/5(金)

13:30〜15:00
(13:15受付)

らくらく呼吸教室

息切れを伴う呼吸器疾患対象。吸入薬の使い方、運動療法、栄養アドバイス。

2026年 7/2(木)、8/6(木)、9/3(木)、10/1(木)、11/5(木)、12/3(木)
2027年 1/7(木)

13:00〜

膠原病・リウマチ教室

治療薬や副作用、高額療養費などの医療費、リハビリや食事のポイントを解説。

2026年 7/15(水)、9/11(金)、11/16(月)
2027年 2/10(水)

13:00〜13:45

がんの教室

がん薬物療法中の過ごし方や運動、栄養を理学療法士や栄養士が専門的に解説。

2026年 7/27(月)、9/7(月)、11/2(月)
2027年 1/18(月)、3/1(月)

13:15〜14:15

会場 **1階 講堂**

ご案内 詳しい開催場所、最新の講師情報、詳細な講義プログラムは、当院ホームページ、または右記のQRコードからご確認いただけます。

詳細はコチラから

ご寄付のお願い

当院はこれからも地域の皆様へより良質で安全な医療を提供していきたいと考えています。皆様には寄付という形で当院の運営に共に携わっていただきたいと思っておりますので、金額の多寡にかかわらずご支援を賜りますようお願い申し上げます。

神戸市立医療センター中央市民病院 病院長 貝原（かいはら） 聡（さとし）

ご寄付の流れ

1. ご寄付のお申込み

「寄付申込書」に必要事項をご記入いただき、下記の宛先へご提出ください（郵送・FAX・持参どれでも可）。寄付金の納付先をご連絡させていただきます。また、インターネットでのお申込みも可能です。
「現金」、「銀行振込み」、「クレジットカード」のいずれかで可能です。また、遺贈によるご寄付も承っております。

詳細はこちら▲

2. 寄付受納書のご送付

寄付受納書は、口座への入金を確認後に発行させていただきます。
インターネットからクレジットカード決済をお申込みの場合、クレジットカード会社から当機構への入金を確認した日付以降となり、通常2～3か月を要しますので、あらかじめご了承ください。

お問い合わせ 経営企画課
TEL：078-302-4321／FAX：078-302-7537
E-mail：kifu@kcho.jp

寄付金で購入いたしました



ヘパフィルター



外来用の椅子

ご寄付をいただいた皆様

（令和7年12月～令和8年3月）

多くの励ましやご支援をありがとうございました。
ご寄付をいただきました方のお名前を、感謝の気持ちとともにここに掲載させていただきます。

吉原 理江子 様　川井 洋子 様　濱本 義信 様　今浦 尚子 様　池原 幸政 様
山崎 木実 様　都成 祥子 様　藤岡 弘 様

株式会社山陰合同銀行 様
株式会社　兵食 様
医療法人アーリーバーズ 様

（順不同掲載）

SHIOKAZE Magazine しおかぜ通信 Vol.63 2026 SUMMER
編集・発行：神戸市立医療センター中央市民病院 経営企画課
2026.7 発行

地方独立行政法人 神戸市民病院機構
神戸市立医療センター中央市民病院
Kobe City Medical Center General Hospital
〒650-0047 神戸市中央区港島南町2丁目1-1
TEL：078-302-4321
http://chuo.kcho.jp